

そこで、高資格スタッフと呼ばれる人々の中でも、とくに高い学習意欲と高い満足度を示している人々、「花まる高資格スタッフ」に注目し、そうでない人々といったどのような点が異なるのかを比較することが必要だろう。その分析から浮かび上がってきたことに基づいて、今後、企業側にできること、もしくは取り組む必要性が高いことを考えていく。あわせて、一方の高資格スタッフ側が心がけなければならないことも提案していくことで、双方が Win-Win となる仕組みを考えていく。

### 3. 調査方法と分析の流れ

以上のような問題意識のもと、2004年5月から結成・開始された専門委員会で約1年に及ぶ議論を行うと同時に、委員会での意見を集約した形で、質問票調査を行った。調査の実施時期は、2005年1月から2月にかけて。調査対象者は、中部地区自動車関連企業5社の、高資格スタッフを含むホワイトカラー従業員、合計2,220名であった。詳しくは、本論・現状分析編の冒頭で述べている通りである。

また、インタビューを行う代わりに、自由回答欄を設け、高資格スタッフ問題を含めて新たな時代の働き方に関する幅広い意見の収集と分析を行った。この結果の主なものは、本論でも一部触れているが、むしろ補論として紹介することになっている。

なお、本報告書における分析の流れは、図表1の通りである。

図表1 分析の流れ

